

知のネットワーク
10年の軌跡

10th anniversary

学輪IIDA



大学連携会議「学輪IIDA」



飯田市長
佐藤 健

学輪IIDA 10周年を迎えるにあたって

大学連携会議「学輪IIDA」は、かねてから飯田を訪れ、様々な調査研究活動を展開されていた大学等の研究者によるネットワーク組織として設立されました。この10年間、取り組みの展開にご尽力いただいた皆様方に、厚くお礼申し上げます。

学輪IIDAは、メンバーの専門領域が多岐にわたる、画期的な「知のネットワーク」として、4年制大学を有しない飯田における学際的な知の集積を実現するとともに、地域との連携による課題解決や高大連携を中心とした人材育成、協働研究、リニア中央新幹線長野県駅設置を見据えたまちづくり等に大きな役割を果たしてまいりました。

また、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう困難な状況下においても、これまで育んできたネットワークや蓄積された知見・経験を生かしたシンポジウムなどの取り組みが行われてまいりました。

「環境文化都市」を掲げる飯田市はもとより、社会全体が環境をテコにしたイノベーションを志向する中で、地域課題や人材育成、協働研究を通じた研究者の方からの具体的な提案など様々な取り組みが市民にとってより身近なものとなり、飯田における地域づくりがより一層充実したものとなっていくよう期待しています。

学輪IIDAは、飯田にとって大切な財産です。今後も客観的・専門的知見を有する研究者の皆様と、飯田の多様な知との連携や協働を市民に身近な形で一層展開していけますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。



飯田信用金庫
理事長
小池 貞志

学輪IIDA 10周年にあたって

本年で学輪IIDAが10周年を迎えるにあたり、関係各位に対しまして心より感謝申し上げます。

学輪IIDAは、平成23年、当飯田信用金庫の本店2階大会議室にて、フィールドスタディや調査実習などで当地域と関係の深い先生方にお集まりいただき、ご協議いただく中で設立されました。当金庫は飯伊地域に本店を置く唯一の金融機関として、産学官金連携、地域経済活性化に資するとの観点から、飯田市との協働という形で、発足当初より当学輪IIDAに関わらせていただけてきました。

新型コロナウイルスの感染拡大が実体経済にも多大な影響を与える中、当地域の経済も今までにない厳しい環境に置かれている状況です。この困難な状況である今こそ、これまで学輪で培われてきた専門的かつグローバルな「知」の集積を、当地域の課題解決のための貴重な財産として積極的に活用していくこと、また学輪IIDAがこれまでの取り組みの情報発信の役割を担うとともに、地域間連携の輪の中心となって、産業振興そして地域経済の活性化に繋がっていくことを切に祈念いたします。

多くの関係各位にご尽力いただき、やがて開通するリニア中央新幹線の長野県駅に程近いエス・バードでの記念セッションの開催をもって、この節目を迎えられたことに改めて感謝申し上げます、10周年に寄せてのご挨拶とさせていただきます。



前飯田市長
牧野 光朗

学輪IIDA 10周年を迎えて

この度、大学連携会議「学輪IIDA」が10周年を迎えました。

学輪IIDAは平成23(2011)年1月に設立されましたが、その契機は、市の地域学習プログラム「南信州・飯田フィールドスタディ」などを通じて飯田を訪れる大学研究者や学生が増えてきたことから、飯田を起点に大学研究者が相互につながる人的ネットワークを形成し、その輪を広げる中で地域の課題解決や付加価値を高める「地域の知恵袋」としての大学機能を追求していきたい、との私の想いから関係する大学研究者の皆さんに呼びかけたことでした。

「21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり」をコンセプトに掲げた学輪IIDAは、「旧飯田工業高校後利用プロジェクト」や「共通カリキュラム構築プロジェクト」、機関紙「学輪」の発刊や高大連携の取り組みなどによりその輪を大きく広げ、現在67大学・研究機関から139名の参加者を得るに至っています。

改めて他に類を見ないこうした人的ネットワークを長きにわたって支えてこられた大学研究者や飯田市の皆さんに心から感謝を申し上げ、リニア・三遠南信道時代に向けた学輪IIDAの更なるステップアップを祈念し、あいさつとさせていただきます。



学輪IIDAとは

飯田は古くから交通の要衝であり学びと「結い」の風土により、ほかの地域から人材や情報を受け入れながら、独自の文化や価値を創り出してきました。

こうした飯田の公民館や自治活動、りんご並木、いいだ人形劇フェスタに代表される協働によるまちづくり、環境文化都市実現に向けた取り組み等に注目した大学研究者や学生が、調査、研究、学習の場として飯田を訪れる中で、相互の繋がりが生まれ活動の輪が広がりました。

「21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり」を目指して、飯田と大学との1対1の関係から、飯田を起点に様々な大学研究者が相互につながる有機的なネットワークを形成するために、平成23年1月に飯田市の呼びかけで設立されました。

大学連携会議「学輪IIDA」は、飯田に価値を見出したり、関心を持った大学研究者のネットワーク組織で、役職や規約などの無い緩やかな(平らな)組織という特徴があります。

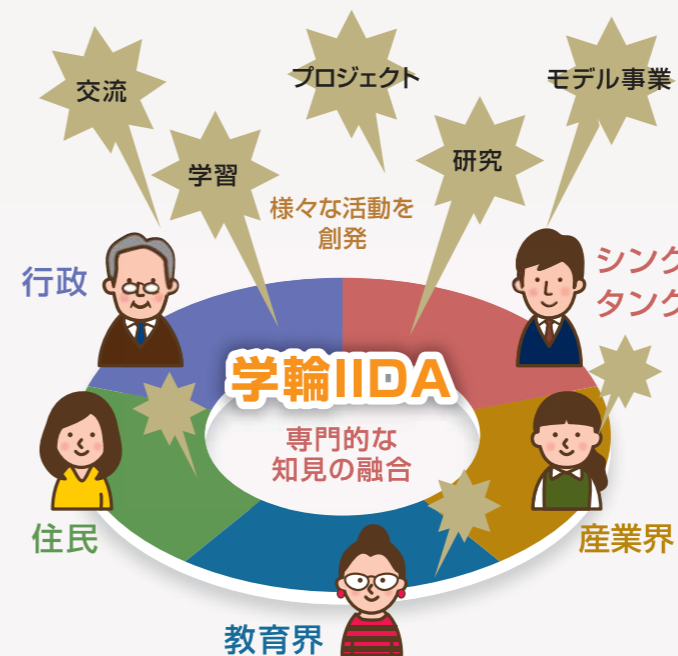
また、大学研究者による「ボトムアップ」で「ボラントリー」な活動を基本としています。

大学研究者同士が学輪IIDAのネットワークを通じて相互に知り合い親睦を深めながら、モデル的な研究や取り組みを地域とともに進めていくという試みです。

大学の専門的な知見や人材を飯田に呼び込み、これまで飯田が培ってきた経験や取り組みと融合することで、地域の課題解決や付加価値を高めていくような新しい形の大学的な機能の構築を追求していく挑戦でもあります。

主な活動として、学輪IIDA全体会や有志による年間を通じたプロジェクト活動、飯田における調査研究・実践活動等の情報や知識のストックと発信等に取り組んできました。

設立当初19大学43名だった研究者の参画も、これまでの様々な活動を通じて、令和2年12月末日現在では67大学・機関、139名もの研究者等が参画するまで拡大し、ネットワークの輪が広がってきています。



知のネットワークによる **共創の場** づくり

田園型の学術研究都市

リニア将来ビジョン
「小さな世界都市」・「高付加価値都市圏」

21世紀型の新しい
アカデミーの機能や場づくり

学輪IIDAの取り組み

- 学輪IIDAの全体会
- 情報や知識のストックの発信
- 時勢に応じた取り組み
- 有志による通年のプロジェクト

飯田を起点に相互につながる
有機的なネットワークの形成

学輪IIDAのあゆみ

飯田市の 主な出来事

飯田市美術博物館
プラネタリウムリニューアル

(公財)南信州・飯田
産業センター設立

「地域人教育推進に係る
パートナーシップ協定」
締結

信号からの転換による
全国初のラウンドアバウト
運用開始

リニア中央新幹線
長野県駅の飯田市
設置決定

南アルプス地域が
ユネスコエコパークに
登録

市役所新庁舎
業務開始

平成
22年度

学輪IIDA設立

メンバー
19大学
43名

23年度

全体会

29大学
62名

★研究者による
プレゼンテーション

旧飯田工業高校後利用
プロジェクト会議

共通カリキュラム構築
プロジェクト会議

24年度

全体会

27大学
72名

地域と大学との連携による地域づくりの可能性について

★大学の実践事例報告

・シャレット・ワークショップの取組(豊橋技術科学大学)
・デジタルプラネタリウム共同プロジェクトの取組(和歌山大学)
・参加型地域社会開発(PLSD)研修の取組(日本福祉大学)

★パネルディスカッション

25年度

全体会

29大学
81名

「学びの場 飯田」の魅力や可能性について

★大学の実践事例報告

・地域社会システム調査実習の取組(東京農工大学)
・学びの場としての飯田
～フィールドワークの経験から～(法政大学)
・飯田における伝統工芸(水引産業)の活性化に
向けた調査報告(京都外国語大学)
・知のネットワークを活用した人材育成に向けた取組(法政大学)

★パネルディスカッション

26年度

全体会

29大学
82名

地方消滅時代における飯田下伊那

～右肩下がり時代における持続可能な地域の実現のために～

★大学の実践事例報告

・飯田における多文化共生とそれを基軸とした
地域振興の方向性(上智大学)
・国内スタディジャパン研究の取組(法政大学)

★パネルディスカッション

機関誌「学輪」創刊

● 知の拠点プロジェクト会議

27年度

全体会

25大学
88名

「真の地方創生」の実現に向けた
学輪IIDAの意義とこれからの可能性

★大学の実践事例報告

・飯田水引プロジェクトの取組(法政大学)

★パネルディスカッション

28年度

全体会

38大学
92名

様々な「知」や「人財」が共鳴して集う地域の実現に向けて

★大学の実践事例報告

・飯田水引プロジェクトの取組(法政大学)
・航空機システム共同研究講座の開講(信州大学)

★パネルディスカッション

29年度

全体会

50大学
109名

ナレッジリンクの一翼を担う田園型学術研究都市に向けて
～イノベーションが起こる地域社会創造を目指して～

★基調報告I 学輪IIDA実践事例

・飯田市を基盤とした地域社会と教育の結びつき
～LBS JAPAN TREK 2017 IN IIDA CITYを事例として～
(京都外国語大学)

・学輪IIDA共通カリキュラム構築プロジェクトの取組

★基調報告II 活動紹介

・地域人教育の取組(飯田OIDE長姫高等学校 Sturdyegg)

★フリーディスカッション

30年度

全体会

55大学
122名

知のネットワークの活用による地域人財育成の可能性について

★高校活動紹介

・Ene-1 GP SUZUKAの取組(飯田OIDE長姫高校)

★大学連携の事例報告 ポスターセッション 発表17団体

★全体討議

・事例報告「共通カリキュラムフィールドスタディと高大連携について」
大学・高校から

★フリーディスカッション

令和
元年度

全体会

60大学
131名

知のネットワーク活用による真の地方創生実現に向けて
～「知」を創造し、「知」がひとを呼び、発展する「まち」のカタチ～

★学輪インターユニバーシティ「プレ」オープンキャンパス

★学輪IIDA高大連携の取組報告 大学・高校・参加高校生から

★パネルディスカッション

● 共通カリキュラム実行委員会

● 学輪インターユニバーシティ
オープンキャンパスプロジェクト

● プロジェクトみらい

リニア駅周辺整備
基本計画策定

アジア初の
AVIAMA総会開催

世界人形劇
フェスティバル開催

産業振興と
人材育成の拠点
「エス・バード」開所

信州大学南信州・
サテライトキャンパス開設

三遠南信自動車道
天龍峡大橋に歩廊
「そらさんぼ天龍峡」開設

リニア駅周辺整備
基本設計策定

学輪IIDAの取り組み

全体会

【平成23年度～】

学輪IIDA全体会は、学輪IIDAメンバーが年に一度飯田に会し情報共有や交流を深める機会として、また、市民に大学連携や学輪IIDAの活動を知っていただく機会として、更に地域課題の解決に向けた新たな大学連携、活動に関する議論を深める機会として開催しています。全体会は、1日目に行われる「公開セッション」と2日目の「内部討議」で構成されています。



全体会の模様

公開セッション

メンバーと市民が、情報共有や議論を深めるため公開で行われます。大学の実践事例報告や学輪IIDAプロジェクトの報告、テーマを定めたシンポジウムやフリーディスカッション等を行います。

内部討議

学輪IIDAメンバーが、プロジェクトの活動報告や次年度の取り組みの検討や、公開セッションを通じて明らかになった課題等について議論し、新たな取り組みに向けた検討を行います。

飯田に関する知見の蓄積と情報発信

学輪IIDAウェブサイト・YouTubeチャンネル「学輪IIDA」

【平成24年度～】

学輪IIDAのウェブサイトのほかYouTubeチャンネルを開設し、メンバー間の情報共有や大学連携の取り組みに関する情報発信を行っています。



ウェブサイト Youtube

機関誌「学輪」 [ISSN:2189-3268]

【平成26年度～】

学輪IIDAの取り組みや飯田における教育・研究活動の実績を蓄積するとともに、より多くの方に知っていただくために、大学研究者等による飯田に関する論文などを掲載しています。平成26年度から毎年1回発行し、令和2年度末現在第6号まで発行しています。



時勢に応じた取り組み

10周年記念 学輪IIDAスペシャルシンポジウム

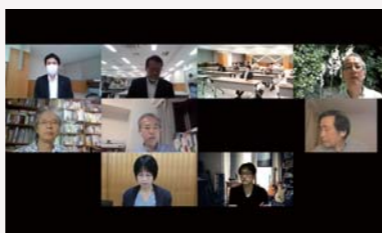
学輪IIDAスペシャルシンポジウム シリーズ

『いいだの未来デザインを考える』

～ after/with コロナ時代における地方のパラダイムシフトと創生 ～

【令和2年度】

学輪IIDAに備わる専門性やネットワークを最大限に活用し、コロナ時代のパラダイムシフトをどのように捉え、新たな方向にどう向かっていくべきか、リニア時代を見据えた飯田の未来について考えるシンポジウムを開催いたしました。



第1回 テーマ コロナで始まる(変わる)新しい時代を模索する

第2回 テーマ 飯田だから実現できる未来戦略 ～つながりと交流の先に～

第3回 テーマ 飯田だから実現できる未来戦略 ～持続可能で豊かな地域へのデザイン～

学輪IIDAのプロジェクト会議

学輪IIDAのプロジェクト会議は、学輪IIDAメンバー有志の方が実現可能な取り組み等を議論し、具体的な方向性を見出すために設置されました。

01 旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議

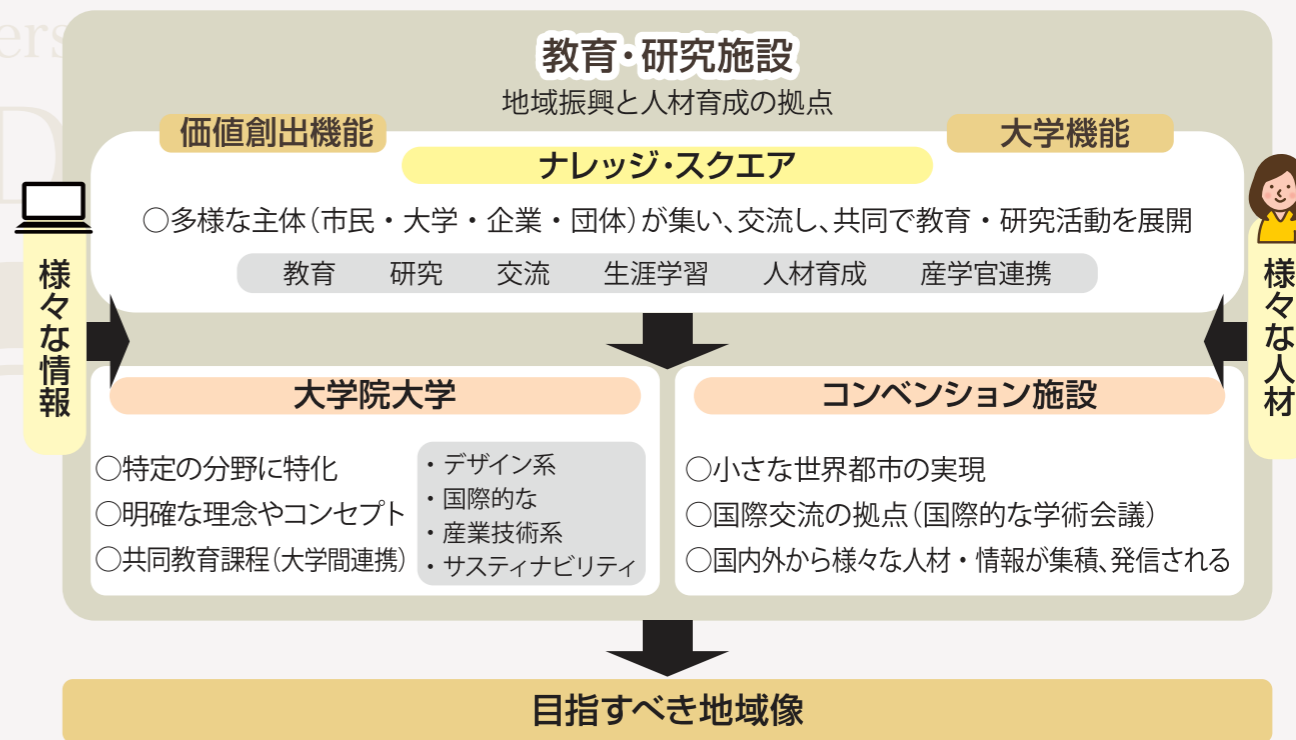
【平成23年度～平成25年度】

旧飯田工業高校施設の「教育施設としての活用可能性」について、様々な角度から検討することを目的に設置されました。

それまでの大学連携の取り組みからの積み上げと、リニア時代を意識した大学的な機能の2つの視点で検討を重ね、プロジェクト会議による飯田工業高校後利用に関する提案として価値創出機能と新しい形の大学機能を有する「ナレッジ・スクエア構想」が示されました。

プロジェクト会議の議論を参考にしながら、地域においても「知の拠点づくり」に向けた検討が進められました。

当時のプロジェクトで提案された飯田工業高校後利用のイメージ



02 知の拠点プロジェクト会議

【平成26年度】

飯田工業高校と飯田長姫高校の統合による移転後の校地を活用した知の拠点の形成に向けて、「知の拠点が目指す姿やその実現に向けた検討」と「リニア時代を見据えこの地域にどのような知の拠点が必要か、そこで如何にして魅力を形成し人材を引き寄せる磁力を形成し発信していくか、共創の場のあり方」等について意見交換を実施しました。

03 共通カリキュラム構築プロジェクト会議

【平成23年度～平成29年度】

平成23年度に以下を目的として設置されました。

- 共通カリキュラム構築による、飯田を起点とした複数大学による新たな連携モデルの構築
- 飯田の人々が感じている価値と、飯田に関わってきた各大学が感じている飯田の価値の共有化を通じた飯田における研究や教育のコアの確認
- 学びの体系の見える化を図ることによる、多くの大学が飯田の資源に学ぶ環境の構築と大学生や教員の飯田への誘引、大学と地域住民等が共に学びあう場づくり
- 学輪IIDAのコンセプトである「21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり」や「飯田工業高校後利用」につながる展開

7年間におよぶ「モデルカリキュラム」の作成と実践を経て、より多くの学輪IIDAメンバーの協働で創りあげるプログラムとして本格展開の段階に移行するため、平成30年度から実行委員会形式での実施へと発展しました。

取り組まれたモデルカリキュラム

★ソーシャルキャピタルFS ★地域環境政策FS ★ニューツーリズムFS ★地域経営論FS ★地域文化論FS

飯田における学びの4日間 (フィールドスタディの様子) の一例

	1日目	2日目	3日目	4日目
午前		 ●市長による基調講演 ●住民自治と協働のまちづくり ●グループ別事例調査準備	 ●調査とりまとめ・発表準備	 ●飯田市グリーンツーリズム
午後	 ●ソーシャルキャピタル概論	 ●グループ別事例調査実践者の話を聴く	 ●グループ発表と討議	 ●ごんべえ邑での五平餅・田舎料理体験
夜	 ●飯田の公民館活動を公民館主事から学ぶ	 ●調査のまとめ	 ●農家民宿体験	

04 共通カリキュラム実行委員会

【平成30年度～】

共通カリキュラム構築プロジェクトによる7年間のモデルカリキュラムづくりを経て、より多くの大学が参加し共通で学びあえる環境の整備と、本格的なカリキュラムの実施に向け、「共通カリキュラム実行委員会」が発足しました。また、これまでの蓄積を飯田の次世代育成に活かすという観点から、実行委員会には地元高校教諭も参画し、高大連携の取り組みが本格化しました。

● 取り組みの柱

① 共通カリキュラムの本格的な展開

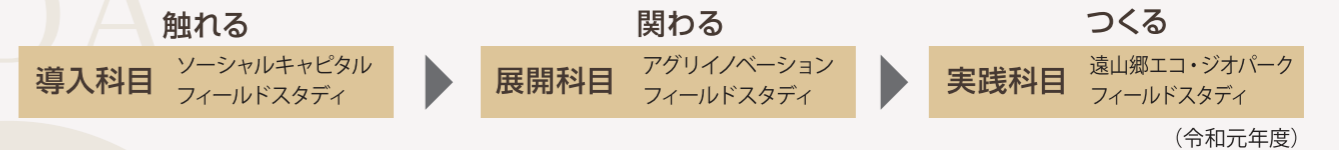
- カリキュラムの見える化
- 大学が参加しやすい環境の構築
- 協働しやすい体制づくり
- 多彩なプログラムやイノベーション
クリエイティビティ視点からのプログラムづくり
- PBL型の授業づくりの検討
- 市民参加型のフィールドスタディの検討
- テキスト化、アーカイブ化に向けた検討

② 高校と大学の連携した取り組みの展開

- 大学と高校のネットワークの構築
- 高大共学フィールドスタディ実施(再掲)
- 高校模擬講義
- 「地域人教育」「地域学習」との連動
- 地域人財育成の視点による連携の検討

● フィールドスタディの体系化

実行委員会体制への移行により、これまでモデル的に取り組んでいたフィールドスタディの安定的な実施が可能となりました。また、各種フィールドスタディを体系的に整理することで、より総合的・包括的な飯田の価値の把握・見える化に取り組んでいます。



05 学輪インターユニバーシティオープンキャンパスプロジェクト

【令和元年度～】

大学の研究力に期待する社会的な状況がある中、学輪IIDAに参加する大学関係者相互に最先端かつ高度な知見に触れ共有する機会を提供し、学際的な見識やネットワークに寄与する場という学輪の可能性を追求するため、学輪IIDAメンバーの研究者としての専門性と教員としてのスキルを活かした、全世代向けの公開講座の実施を目指しています。



令和元年度プレイベントの会場の様子

1 国連持続可能な開発目標(SDGs)とその視点から見た地域創生

阿部 治氏(立教大学教授/ESD研究所所長)

2 川と地域経済 -水車からみた地域産業史の旅-

石神 隆氏(法政大学名誉教授)

3 日本漢文で考える年号「令和」

-『万葉集』巻五「梅花歌州二首并序」から-

七田 麻美子氏
(埼玉大学基盤教育研究センター准教授)

4 カラスの知られざる生態と

カラスとの共存を目指した市民参加型の被害対策

塚原 直樹氏
(宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター特任助教)

5 地域振興のツールとしての自然公園

-国立公園・国定公園、そしてユネスコエコパーク-

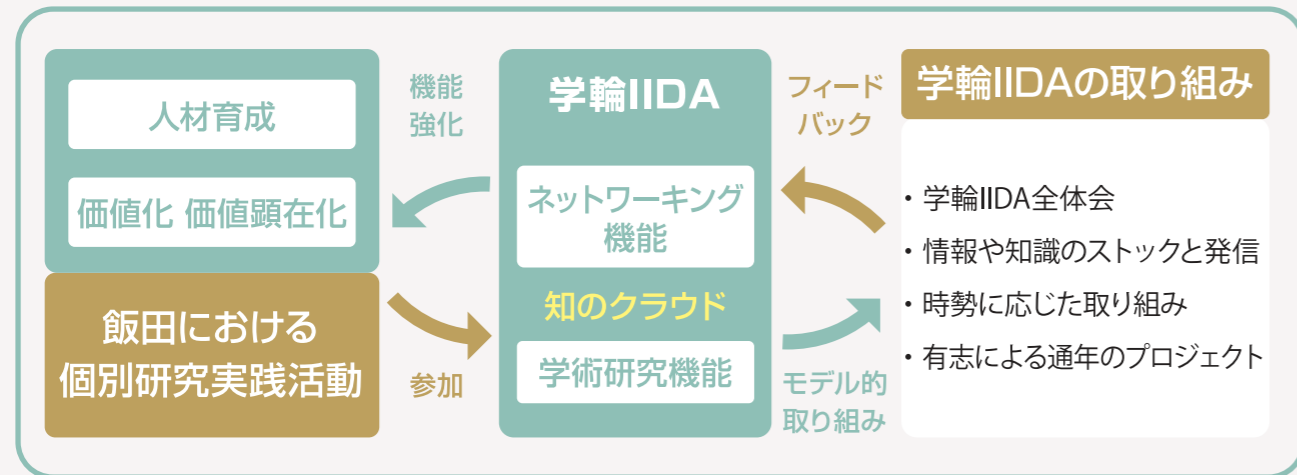
土屋 俊幸氏(東京農工大学大学院教授)

飯田における学輪IIDAの役割

専門的知見を呼び込み、地域につなげる学輪IIDAの機能

21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくりをコンセプトとした学輪IIDAの設立により、それまで飯田をフィールドとして個別に調査研究や実践活動を行っていた大学研究者のネットワークができました。

これによって、共通の関心を持った研究者が大学や研究領域の枠を越えて協働し、学輪IIDAのモデル事業やプロジェクトとしてともに活動したり、成果や課題を持ち寄って様々な専門的視点からともに議論したりすることができるようになりました。



知のネットワークと連携した地域づくりで目指すもの

飯田を舞台とした実践的な学術研究を地域とともにやり、またその成果をフィードバックしながら、学輪IIDAは世界に誇る「田園型学術研究都市」を目指して取り組んでいます。

知のネットワークと連携した地域づくり

- 地域と大学が連携した地域課題の解決
- 知のネットワークを活用した人材育成
- 飯田の価値を明らかにする共同研究

- 市民が多種多様な専門的知見に触れ交流する機会の創出
- 飯田の様々な領域の価値を明確にすることで体系化や蓄積をし、地域づくりに活かす環境づくり
- 地域づくりに外部の知を活かし新たな視点での活動展開
- 地元高校生を始め、地域の担い手などの学びや成長への寄与
- 飯田と研究者や大学生との関係の深化

田園型の学術研究都市

リニア将来ビジョン
「小さな世界都市」・「高付加価値都市圏」

21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり

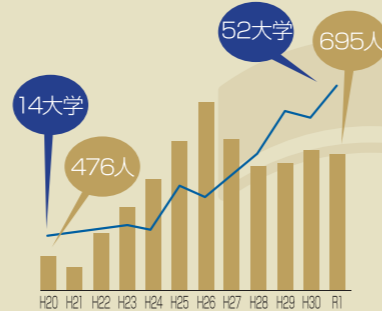
知の拠点構想

- 将来的な高等教育機関
- アカデミックな機能
- 産業振興の拠点

産業振興と人材育成の拠点
信州大学航空機システム共同研究講座

飯田で取り込まれている多彩な大学連携活動

多くの学生や研究者が飯田を訪れ、この地域を舞台として学んでいます。その活動は飯田をフィールドとした調査研究・学習活動や、地域の課題解決に向けた共同研究など多岐にわたっています。専門的・学術的な視点から飯田を捉えることで、この地域が持つ価値や魅力の見える化や、地域の将来を担う人材育成にもつながっています。



フィールド活動	大学のゼミや授業でのフィールド実習や研究調査活動、個々の研究、地域を学ぶスタディツアー、複数大学乗り入れの大学間共通カリキュラムの構築など、飯田を舞台とした学習・教育活動を展開。
共同研究	飯田を舞台にした社会実験、社会教育機関等の飯田内部の組織・団体と連携した共同研究などを行い、その効果検証や価値の見える化を実施。
高大連携	地元高校生育成への寄与として、研究者や学生が地元高校と連携した高校の授業カリキュラムの支援、大学・高校教員のネットワーク体制構築、大学のフィールド活動への高校生参加、日本を学ぶ留学生との交流などを展開。

知の蓄積と交流	飯田に関する各種研究の収集、報告や発表の場づくり、機関誌「学輪」やWEBサイトによる情報発信、地域内外の「知」が混ざり合う機会の創出をとおして、飯田に関する知の蓄積と、それを活かすための環境整備。
シンクタンク	飯田が直面する喫緊の課題や、地域社会を取り巻く諸課題に対して、飯田のことをよく知る研究者による専門的知見からの対論や意見交換、調査研究、アドバイスなどを行い、地域の行く末や在り方の検討に寄与。
域学連携	大学などが蓄積している知識・情報・ノウハウを生かして、飯田の地域に入り込み、各種団体と連携しながら地域課題解決に向けた調査研究、提案、実証、実践等を展開。

域学連携交流施設「さあくる」

飯田市では、大学生等の行う飯田における調査研究や教育活動をより一層充実させ、地域と大学との連携や交流を一層促進するため、拠点となる宿泊施設「域学連携交流施設『さあくる』」を平成30年度に開設しました。

産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」に隣接した「さあくる」を拠点として、飯田を訪れる学生が調査活動やフィールドスタディ、ゼミの合宿、インターンシップ等で学んでいます。



詳細は、右記QRコードから飯田市ウェブサイトをご覧ください。



学輪IIDA
ウェブサイト



学輪IIDA
チャンネル



大学連携会議「学輪IIDA」

事務局

飯田市 総合政策部 企画課 大学・三遠南信連携係

電話番号(代表) **0265-22-4511**

〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地